

平成26年度 砺波市財務状況把握の結果概要

都道府県名	団体名	財政力指数	0.58	標準財政規模(百万円)	13,555
富山県	砺波市	H27.1.1人口(人)	49,406	平成26年度職員数(人)	380
		面積(Km ²)	127.03	人口千人当たり職員数(人)	7.7

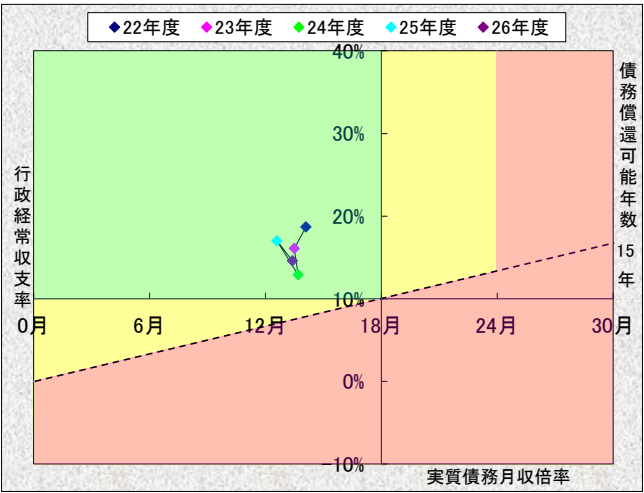
<人口構成の推移>

(単位:人)

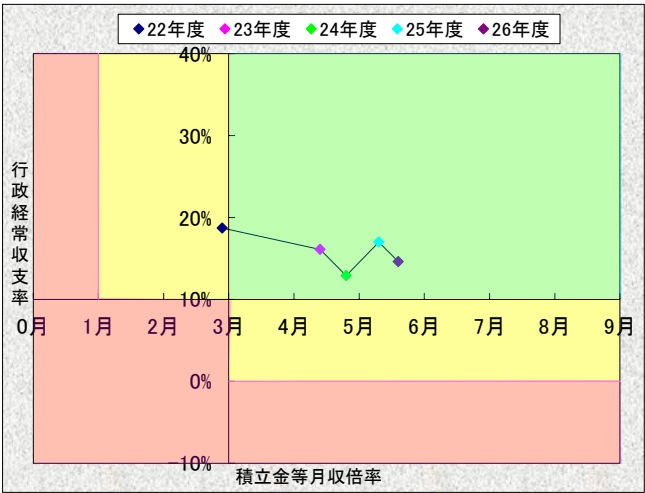
	総人口	年齢別人口構成						産業別人口構成					
		年少人口 (15歳未満)	構成比	生産年齢人口 (15歳～64歳)	構成比	老年人口 (65歳以上)	構成比	第一次産業 就業人口	構成比	第二次産業 就業人口	構成比	第三次産業 就業人口	構成比
12年国調	48,092	7,294	15.2%	30,450	63.3%	10,348	21.5%	1,486	5.6%	10,840	41.2%	13,985	53.1%
17年国調	49,429	7,427	15.0%	30,658	62.0%	11,111	22.5%	1,610	6.0%	10,035	37.5%	14,974	56.0%
22年国調	49,410	7,278	14.8%	29,899	60.7%	12,103	24.6%	1,470	5.7%	9,194	35.5%	15,232	58.8%
22年国調	全国		13.2%		63.8%		23.0%		4.2%		25.2%		70.6%
	富山県		13.0%		60.8%		26.2%		3.5%		34.0%		62.4%

◆ヒアリング等の結果概要

【債務償還能力】

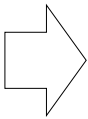


【資金繰り状況】



[財務上の問題]

債務高水準	-
積立低水準	-
収支低水準	-



[要因分析]

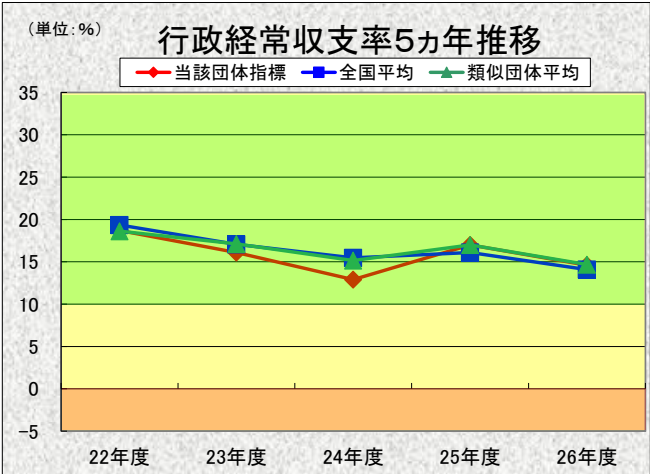
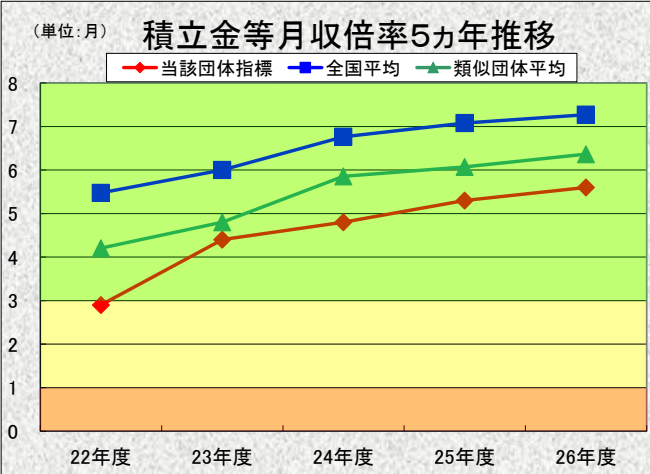
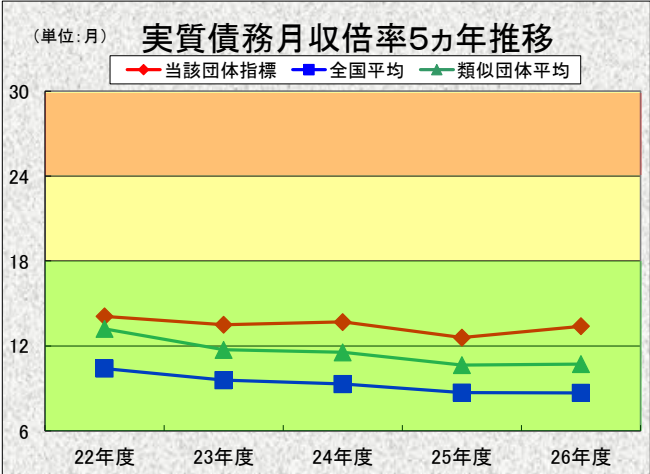
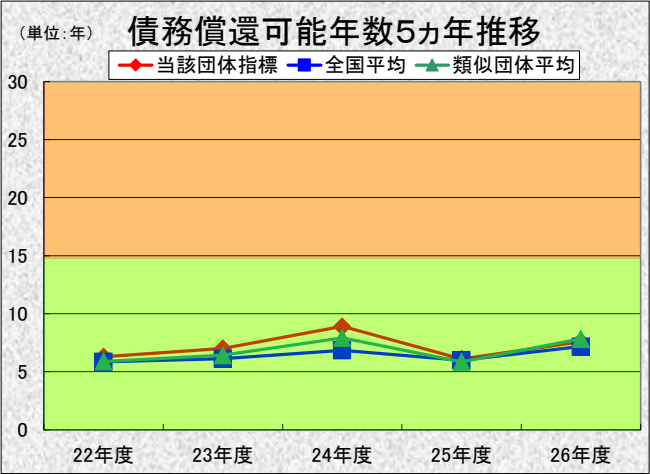
債務高水準		積立低水準		収支低水準	
建設債	-	建設投資目的の取崩し	-	地方税の減少	-
実質的な債務	債務負担行為に基づく支出予定額	-	資金繰り目的の取崩し	-	人件費・物件費の増加
	公営企業会計等の資金不足額	-	その他	-	扶助費の増加
	土地開発公社に係る普通会計の負担見込額	-			補助費等・繰出金の増加
	第三セクター等に係る普通会計の負担見込額	-			その他
	その他	-			
その他	-				

◆財務指標の経年推移

＜財務指標＞

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
債務償還可能年数	6.3年	7.0年	8.9年	6.1年	7.6年
実質債務月収倍率	14.1月	13.5月	13.7月	12.6月	13.4月
積立金等月収倍率	2.9月	4.4月	4.8月	5.3月	5.6月
行政経常収支率	18.7%	16.1%	12.9%	17.0%	14.6%

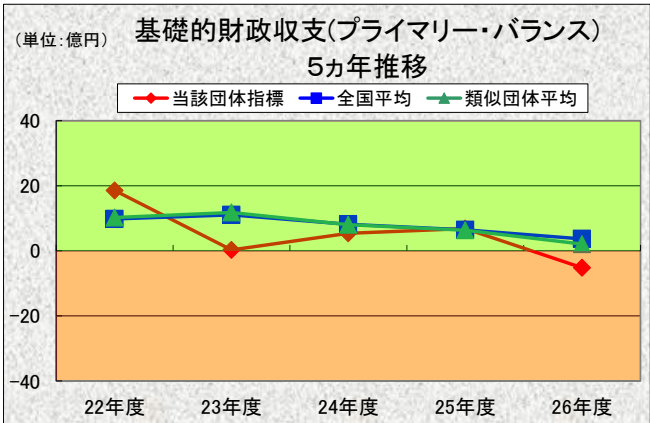
類似団体区分	
都市Ⅰ－Ⅰ	
類似団体 平均値	全国 平均値
7.8年	7.2年
10.7月	8.7月
6.4月	7.3月
14.7%	14.1%



＜参考指標＞

(26年度)

健全化判断比率	団体値	早期健全化 基準	財政再生 基準
実質赤字比率	－	12.90%	20.00%
連結実質赤字比率	－	17.90%	30.00%
実質公債費比率	13.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	67.8%	350.0%	－



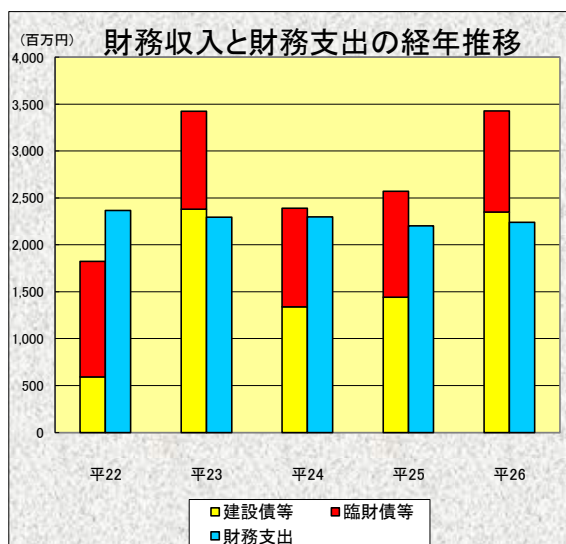
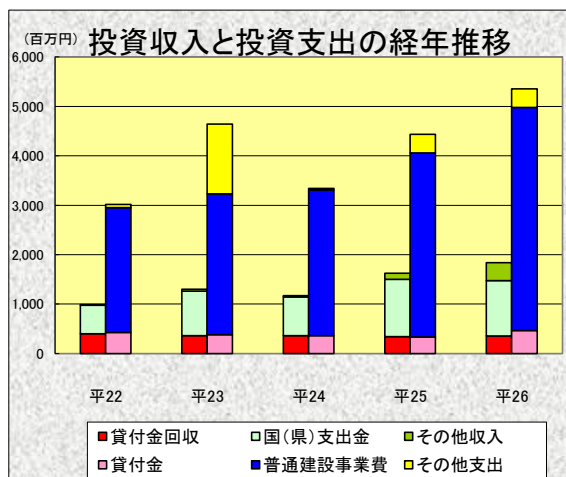
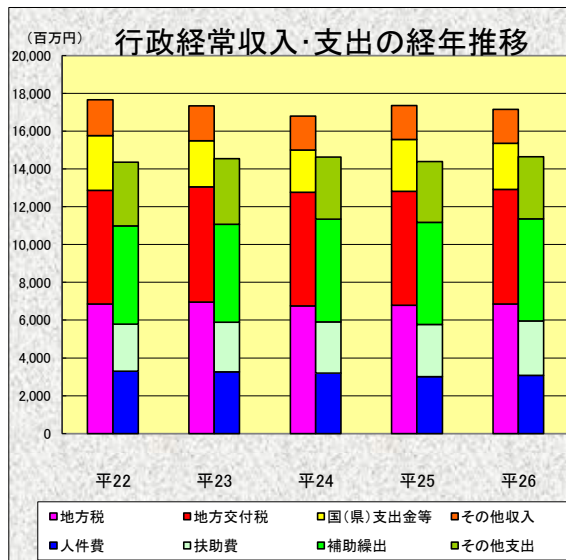
基礎的財政収支 = [歳入 - (地方債 + 繰越金 + 基金取崩)]
- [歳出 - (公債費 + 基金積立(※))]
(※)基金積立には決算剰余金処分による積立額を含まない。

※1. 債務償還可能年数について、分子(実質債務)がマイナスとなる場合は「0.0年」、分母(行政経常収支)がマイナスとなる場合は「-」(分子・分母ともマイナスの場合は「0.0年」として表示している。
2. 右上部表中の「類似団体平均値」及び「全国平均値」については、各団体の26年度計数を単純平均したものである。
3. 上記グラフ中の「類似団体平均」の類型区分については、26年度の類型区分による。
4. 平均値の算出において、債務償還可能年数と実質債務月収倍率における分子(実質債務)がマイナスの場合には「0(年・月)」として単純平均している。

◆行政キャッシュフロー計算書

(百万円)

	平22	平23	平24	平25	平26
■行政活動の部■					
地方税	6,858	6,957	6,758	6,793	6,846
地方譲与税・交付金	1,019	975	911	932	976
地方交付税	6,013	6,094	6,012	6,017	6,070
国(県)支出金等	2,891	2,439	2,235	2,746	2,433
分担金及び負担金・寄附金	26	32	22	17	34
使用料・手数料	753	728	723	722	679
事業等収入	105	113	131	119	118
行政経常収入	17,665	17,339	16,793	17,347	17,156
人件費	3,290	3,259	3,197	3,015	3,071
物件費	2,661	2,776	2,693	2,634	2,658
維持補修費	336	333	248	263	336
扶助費	2,497	2,634	2,713	2,754	2,893
補助費等	3,407	3,309	3,496	3,423	3,376
繰出金(建設費以外)	1,788	1,872	1,934	1,972	2,024
支払利息	384	364	345	323	292
(うち一時借入金利息)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
行政経常支出	14,362	14,546	14,626	14,383	14,650
行政経常収支	3,303	2,793	2,166	2,964	2,507
特別収入	202	236	203	215	235
特別支出	5	24	10	7	35
行政収支(A)	3,499	3,005	2,359	3,172	2,707
■投資活動の部■					
国(県)支出金	577	899	783	1,164	1,124
分担金及び負担金・寄附金	3	2	3	1	1
財産売却収入	7	36	23	7	4
貸付金回収	400	360	359	340	352
基金取崩	2	4	1	116	357
投資収入	988	1,301	1,170	1,628	1,838
普通建設事業費	2,529	2,849	2,946	3,729	4,517
繰出金(建設費)	-	-	-	-	-
投資及び出資金	36	35	24	27	18
貸付金	426	379	360	334	464
基金積立	24	1,378	8	345	358
投資支出	3,015	4,641	3,338	4,435	5,356
投資収支	▲ 2,027	▲ 3,341	▲ 2,168	▲ 2,807	▲ 3,518
■財務活動の部■					
地方債	1,825	3,423	2,391	2,572	3,426
(うち臨財債等)	(1,233)	(1,042)	(1,053)	(1,129)	(1,077)
翌年度繰上充用金	-	-	-	-	-
財務収入	1,825	3,423	2,391	2,572	3,426
元金償還額	2,367	2,295	2,298	2,202	2,241
(うち臨財債等)	(369)	(386)	(417)	(462)	(495)
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
財務支出(B)	2,367	2,295	2,298	2,202	2,241
財務収支	▲ 543	1,128	93	370	1,185
収支合計	930	793	284	734	373
償還後行政収支(A-B)	1,132	710	61	970	466
■参考■					
実質債務	20,721	19,459	19,216	18,354	19,161
(うち地方債現在高)	(23,926)	(25,054)	(25,147)	(25,516)	(26,701)
積立金等残高	4,204	6,370	6,659	7,734	8,107



(注) 棒グラフの左が収入を表し、右が支出を表している。

◆ヒアリングを踏まえた総合評価

◎債務償還能力について

債務償還能力は、債務償還可能年数及び債務償還可能年数を構成する実質債務月収倍率と行政経常収支率を利用して、ストック面（償還すべき債務の水準）とフロー面（償還原資の獲得状況）の両面から分析したものである。

【債務償還能力】

ヒアリング対象年度（平成26年度）において、診断基準には抵触していない。

ストック面において、実質債務月収倍率が基準（18.0月）より低く、フロー面においても、行政経常収支率が基準（10.0%）を上回っており、債務償還能力は直ちに問題となる水準ではないと考えられる。

【財務指標】

実質債務月収倍率	13.4月
行政経常収支率	14.6%
債務償還可能年数	7.6年

◎資金繰り状況について

資金繰り状況は、積立金等月収倍率と行政経常収支率を利用してストック面（資金繰りバッファの水準）及びフロー面（経常的な資金繰りの余裕度）の両面から分析したものである。

【資金繰り状況】

ヒアリング対象年度（平成26年度）において、診断基準には抵触していない。

ストック面において、積立金等月収倍率が基準（3.0月）より高く、フロー面においても、行政経常収支率が基準（10.0%）を上回っており、資金繰り状況は直ちに問題となる水準ではないと考えられる。

【財務指標】

積立金等月収倍率	5.6月
行政経常収支率	14.6%

※ 債務償還能力及び資金繰り状況について、以下のとおり計数補正を行っている。

○基金取崩額：平成22年度8,771千円、23年度253,252千円、24年度10,878千円、25年度999千円、26年度1,969千円減額補正

（補正理由）

普通会計に繰入されていない資金が収入として計上されているため、投資収入の取崩額と行政特別収入の誤差とを係数補正した。

◎財務の健全性等に関する事項

【今後の見通し】

○ 収支計画：「第1次砺波市総合計画」

（計画期間：平成19年度～平成28年度、最終更新：平成27年12月）

※ 第2次砺波市総合計画（平成29～38年度）は、ヒアリング実施後に策定（平成28年9月30日）。

ストック面について、地方債現在高は、交付税措置の高い地方債を発行するなど、実質公債費比率等の財政規律を遵守して進めていくこととしているが、平成27年度までに市内の小中学校の耐震改修事業を集中的に実施したことなどから平成28年度にピーク（274億円）を迎えると見込んでいる。積立金等残高は、平成26年度までは増加傾向にあったものの、将来的には、厳しい財政状況になることから各基金の取崩し等により減少していくと見込んでいる。なお、市庁舎耐震化費用等については、第2次砺波市総合計画において、市庁舎整備の調査研究を予定しており、実際の工事手法、費用等については調査結果に基づき検討していくこととしている。

フロー面について、行政経常収入は、地方交付税の合併算定替えに係る特例措置終了に伴い、平成26年度から平成32年度の間に4億円程度減少することが見込まれるため、指定管理者制度の活用等により行政経常支出の抑制に努めるとしている。

※ 行政キャッシュフロー計算書作成のために必要な各科目の将来見込額は示されていないため、財務指標の算出は出来なかった。

【財務の健全性確保の観点から留意すべき事項】

（１）行政経常収支等の推移

平成23年度以降、市内小中学校の耐震改修事業や砺波消防署訓練等整備事業等により地方債現在高が増加しており、類似団体平均と比べて高い水準にある。（平成26年度：267億円、類似団体平均：195億円）また、平成27年度以降も新砺波図書館整備事業や新砺波体育センター整備事業の実施を予定している。

ヒアリングによれば、地方債残高のピークは平成28年度（274億円）としているものの、市庁舎の耐震化については、平成33年ごろに調査研究を行った後、工事手法を決めることとしており、仮に用地を取得して移転改築する場合は数十億円規模となるなど、影響の大きい事業が控えている。

今後、償還原資となる行政経常収支は、合併算定替えに係る特例措置の終了に伴う地方交付税の減少のほか、未整備地区全域の管渠敷設整備が控えている下水道事業会計や病院事業会計への繰出金の影響などから悪化する見込みである。このため、公営企業会計の状況や大型工事が財政に与える影響等を注視していく必要がある。

（２）強みを活かした移住定住策の展開

平成27年国勢調査（人口速報集計）によると、貴市の人口は平成22年比▲0.8%の微減にとどまっている。これは、散居村に代表される自然環境や交通アクセスの良さ、積極的な区画整理事業による大型商業施設の進出などが、住み良いまちとして近年のイメージアップに繋がり貴市の強みとして有効に機能しているものと考えられる。

貴市においては、総合戦略において大都市圏での市内企業への就職支援やUターン促進を図っている。今後は、創業支援について民間との連携などによる充実が望まれるほか、就職・創業等と移住定住支援のサポートを同時に行い、住み良いまちで働くライフスタイルをパッケージで提案するなど貴市の強みを活かした施策展開が期待される。

（３）通年型・滞在型観光の実現

貴市は、観光振興戦略プランにおいて、通年型・滞在型観光を目指し、地域の観光資源を地域全体で発掘・保全し、磨き上げるなどの基本方針を掲げている。

これまでの取組みによって、県内最大級のイベントである「となみチューリップフェア」については、毎年30万人を集めるなど、ブランド化に成功しているところであるが、通年型・滞在型の実現に向けては、開催期間が限られているチューリップフェア以外の取組みが期待される。

一方で、貴市は砺波平野の散居村や、温泉・遊覧船があり外部からも高い評価を受けている庄川峡など季節を問わない観光資源を有している。貴市が有している数々の観光資源をフルに活用することによる通年型・滞在型観光の実現が望まれる。